

‘18(平成30)年5月31日



6月 釜小だより

横浜市立釜利谷小学校
釜小Web

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>

梅雨の季節の楽しみ方

副校長 川村 恵子

日本には雨にまつわる童謡が多いのでは…と思われる方はいませんか。

近頃は子ども向けの番組も多様化され、昔から歌われてきた童謡はあまり歌われなくなってしまったのかもしれませんが、私が小さかった頃は、6月になると、「あめあめふれふれ…」「おやまにあめがふりまして…」などの歌声が、学校帰りにどこからか聞こえてきたり、自分が歌ったりすることがよくありました。

「あめふり」「あめふりくまのこ」「雨降りお月さん」「雨」「かたつむり」「てるてる坊主」…。外に出られない切ない気持ちを歌ったものや雨ならではの楽しさを味わおうとする歌など、同じ雨の歌でも内容は様々ですが、雨が降るとそのときの気持ちに合わせて、思わず口ずさんでいたのがこれらの歌でした。誰かが一緒に歌ってくれたり、その歌の様子を絵に描いたり続きのお話を想像したりして、いつの間にか雨をうっとうしく思う気持ちがどこかへいつてしまったものです。

「どの国にも梅雨があるわけではないんだよ」「梅雨のおかげで私たちはおいしいお米が食べられるんだよ」「梅雨には梅雨の楽しみ方があるのだから、それを楽しみなさい」と身近な大人が私たちに教えてくれたので、「雨にまつわる童謡が多いのは、日本に梅雨の季節があるからなんだね」と、一緒に歌っていた友達と勝手に納得していました。

釜利谷小学校の子どもたちの多くは、外遊びが大好きです。雨で内遊びの日が続くと、どうしても体がむずむずしてきてしまうことが、天井から聞こえてくる音で分かります。でも、梅雨の時期だからこそ楽しめることがたくさんあることに気づいている子もいます。

図書館で下学年の子に読み聞かせをする上級生や、折り紙でいろいろな作品を生み出す折り紙名人、細い道でびっしり埋め尽くされた迷路づくり名人など、友達の新しい魅力に気づくチャンスが教室にはあるようです。名人を見つけたり、名人から学んだり。みんなで協力して「学校すごろく」をつくるのも楽しそうです。

梅雨の時期の遊び方、釜利谷小学校の子どもたちらしい発想や工夫で楽しんでほしいと願っています。

今どきの童謡の中にも雨にちなんだものがあるのでしょうか。雨の日の下校時間、職員室からそっと耳をすませたら、私の雨の日の童謡レパトリーが増えるような気がして楽しみです。

